

京都教育大学FDニュース

No.67

2013年6月13日
京都教育大学FD委員会

2012年度後期の学部授業アンケート集計結果について

教育学部講義の授業アンケート（2012年度後期）の実施にご協力いただき、ありがとうございました。調査の概要と結果をご報告いたします。

1. 調査の概要

実施期間：2013年1月21日（月）～2月1日（金）

対象科目数：378

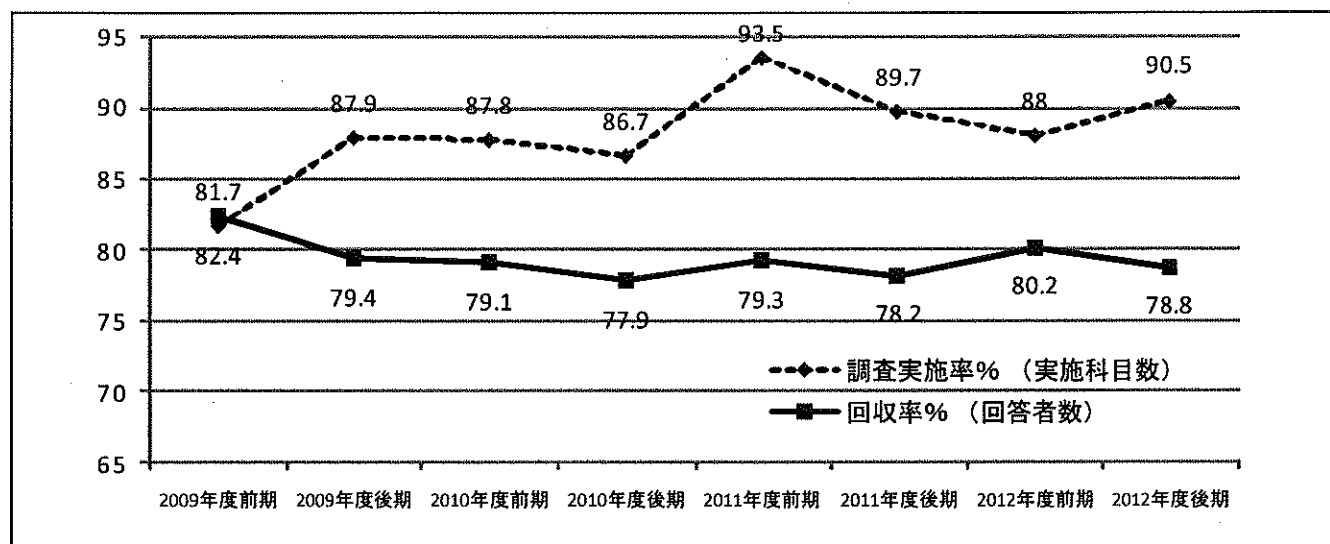
実施科目数：342（調査実施率90.5%）

実施科目の履修者数：11,956名

回答者数：9,423名（回収率78.8%）

過去4年間の実施率と回収率を下図に示しますが、ここ2～3年の実施率は9割前後に落ち着いてきていますので、着実にFDに対する関心や理解が定着しつつあることがうかがえます。ただ残念なことに、何かの手違いなのか、アンケート用紙が全部白紙で提出されている科目が4科目あります。実施科目数100%には、未実施の科目数は32科目ですので、あと少しというところまで来ています。一方、回収率は8割前後を推移していますので、今後は回収率も高めていくことが求められます。

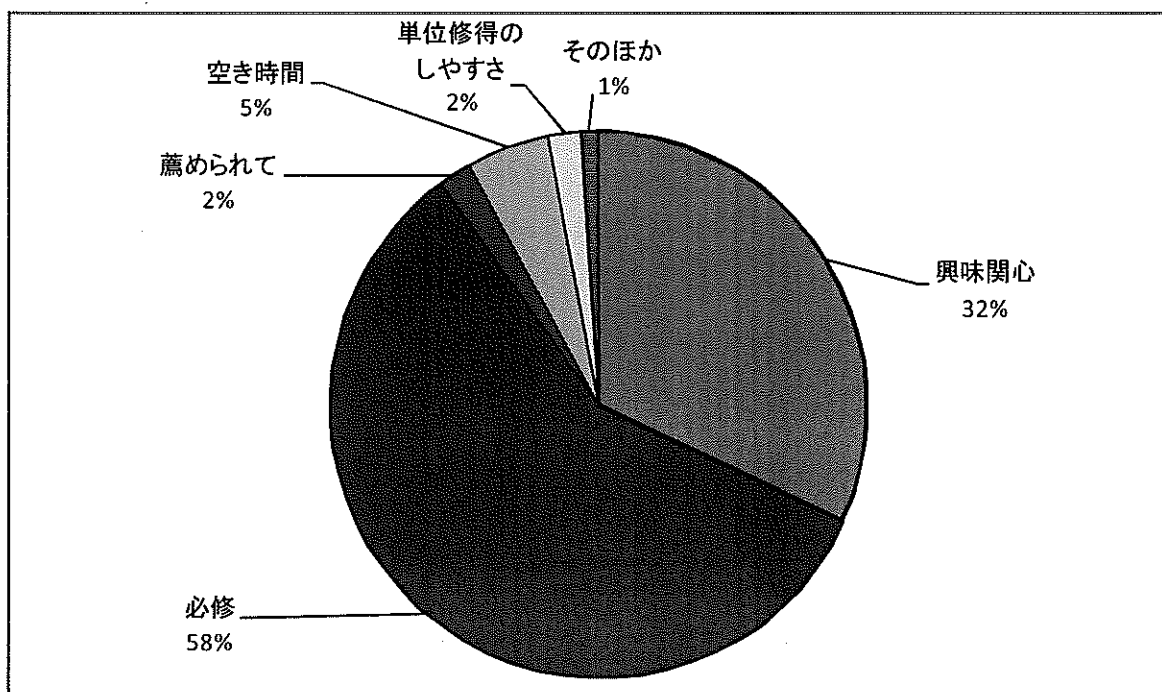
近年の調査実施率と回収率の変遷



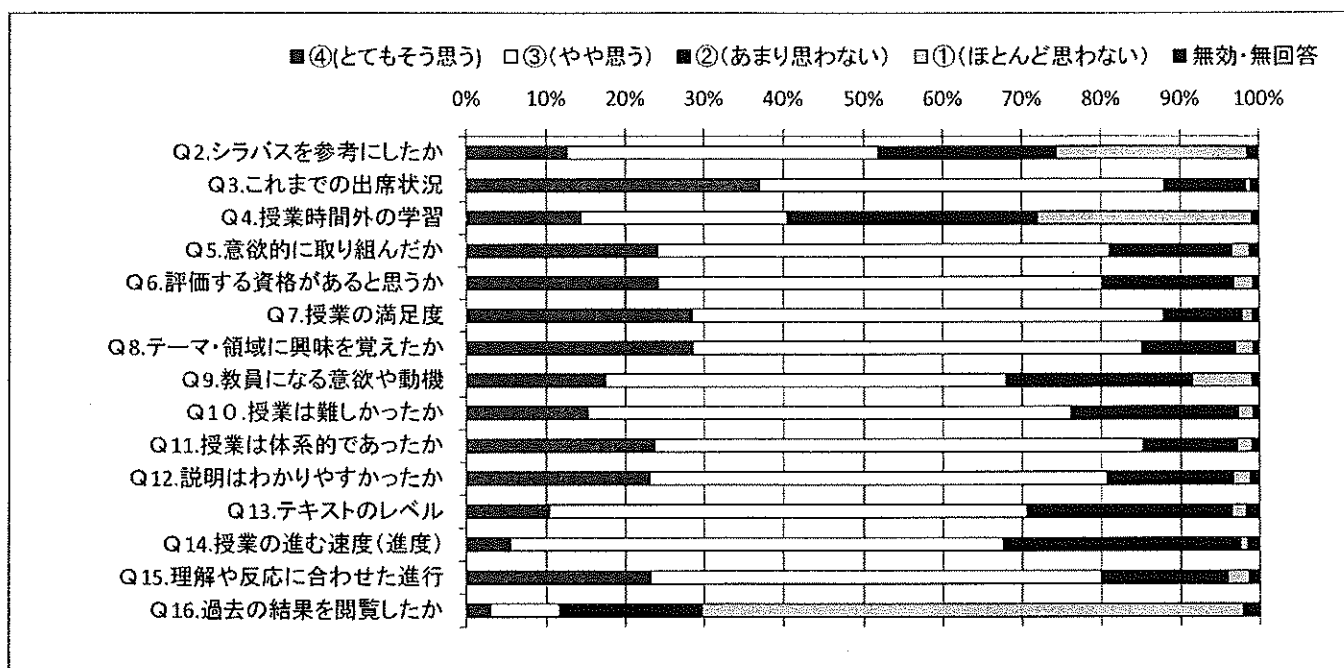
2. 結果の概要

(1) 項目別の回答分布一覧

■ Q1 受講動機



■ Q2～Q16 全体回答の帯グラフ



受講動機 Q1.では、例年と同様に、「必修だから」が最も多く6割弱となり、それと「興味・関心」に基づく理由で全体の約8割を占めています。単位修得のしやすさを理由にする受講生は2%でした。

出席状況 Q3 では、9割弱の受講生が「0～2回の欠席」と答えています。必修科目が多いこともあり、出席率はよいようです。

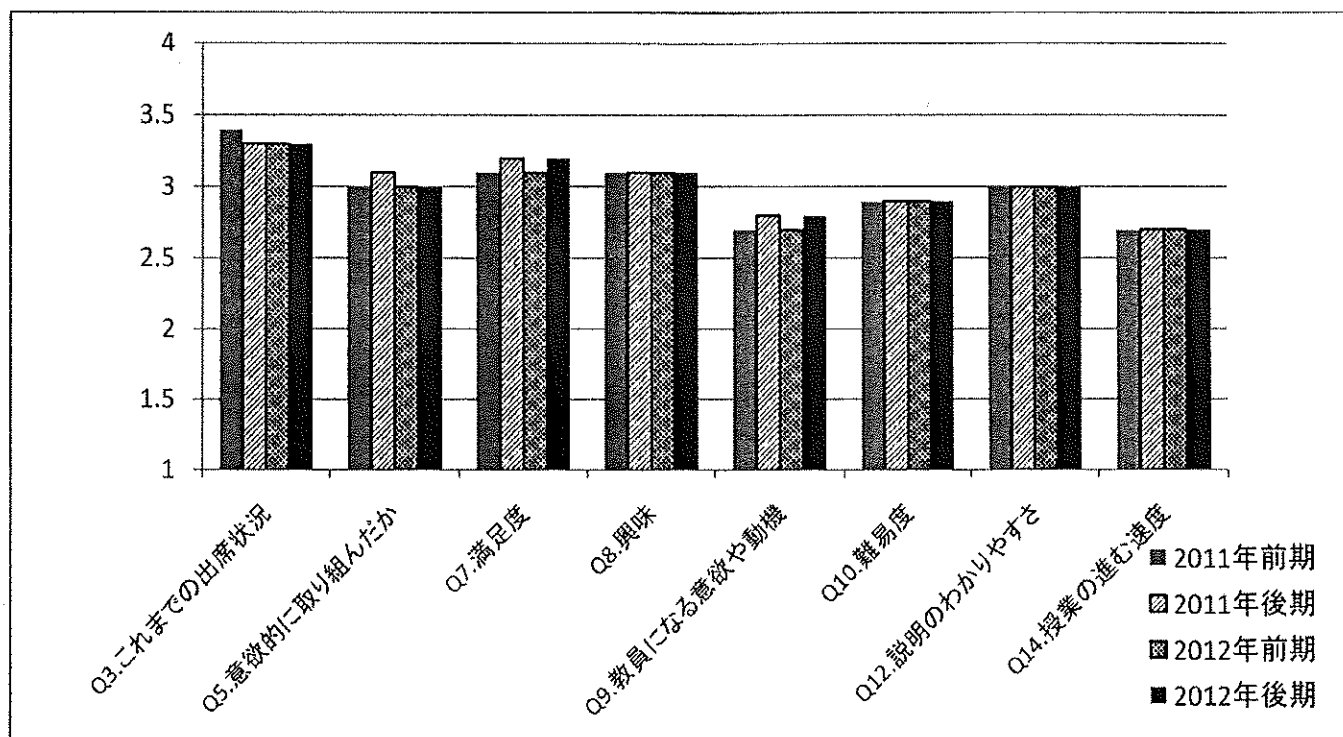
授業時間外の学習 Q4 については、「1時間未満」「ほとんどしない」という回答者の割合が6割弱となっています。ただこの数値は2011年前期には65%に達していましたが、半期毎に2%ずつ減少して今回は6割を割りましたので、授業時間外学習の時間を増やそうという各先生方の対応が、効果と

して、少しずつですが、現れてきていると思われます。

棒グラフで興味深いことには、Q5で8割強の受講生が「とても意欲的に取り組んだ」「やや意欲的に取り組んだ」と回答し、Q6で8割の受講生が公正に評価する資格が「とてもあると思う」「ややあると思う」と答え、Q7で9割弱の受講生が、授業を受講して「とても満足した」「やや満足した」と答えていることです。一方、Q10では、8割弱の受講生が「とても難しかった」「やや難しかった」と回答し、Q13で7割強の受講生がテキストが「とても難しかった」「やや難しかった」と回答して、Q14で7割強の受講生が授業の進度が「とてもはやかった」「ややはやかった」と回答しています。前者（Q5～Q7）の回答と後者（Q10,Q13,Q14）の回答とは少し矛盾があるのですが、Q12の説明のわかりやすさやQ15の理解や反応に合わせた進行という形で、担当者が授業内容の難易な点を補われている結果かもしれません。

アンケート結果の閲覧Q16では、7割の受講生が全く閲覧をしていないという結果でした。

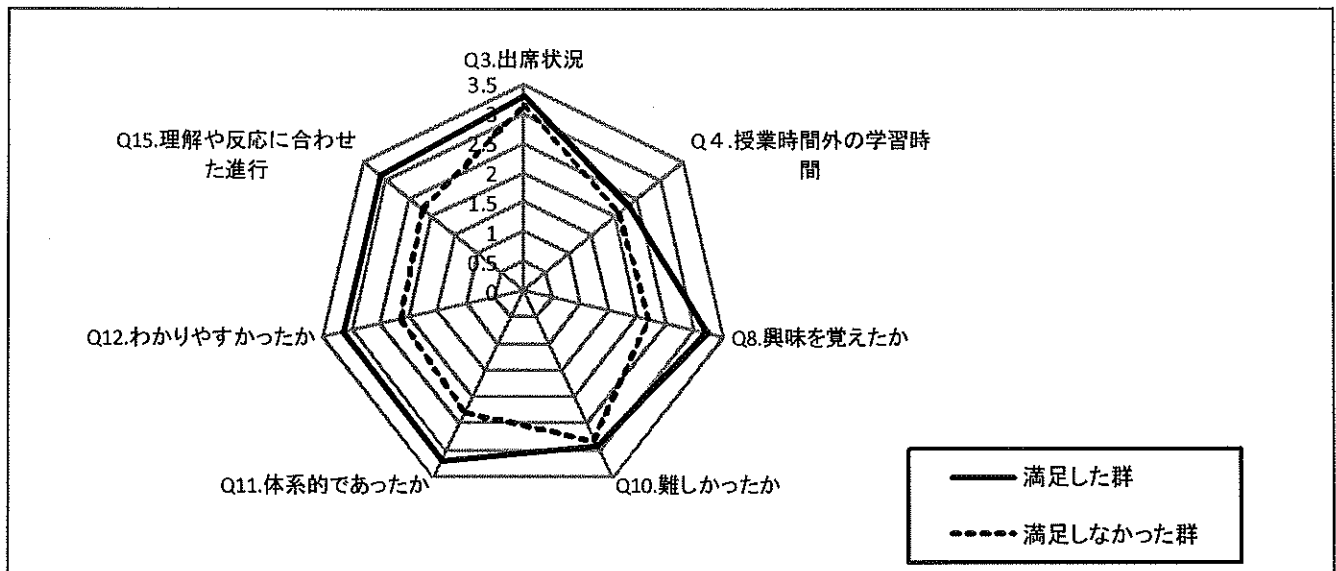
(2) 過年度と同一項目の平均値の比較



昨年度以前から継続して実施している質問項目について、その平均値を比較したものが上記の棒グラフです。年によって、値はそれほど大きくは変化していないことがわかります。「Q7 満足度」と「Q9 教員になる意欲や動機」については、前期より後期の方が少し高くなる傾向があるのですが、設置されている授業科目によるものなのか、受講生自身の意識の高まりによるものなのかはわかりません。2010年度前期・後期も含めると、「満足度」と「授業のわかりやすさ」の値が0.1下がったままになっていることが、少し気になります。

(3) 「満足した群」と「満足しなかった群」の違い

「授業に満足した群」と「満足しなかった群」の比較は例年通りの結果となり、満足度は出席状況や授業の難易度とはほとんど相関がなく、また授業時間外の学習時間もあまり関係がないことがわかります。一方、「授業が理解や反応に合わせた進行」をしているとか、「わかりやすかったか」とか、「体系的であったか」とか、「授業に興味を覚えたか」、という質問項目と大きく関係をしていることがわかりました。この結果は質問項目を新しくした2011年度前期から同様の傾向が続いています。授業が難しくても、体系的であったり、説明が分かりやすい、受講者の反応を受け止めていると満足度が高くなるようです。



(4) 各専攻別でのレーダーチャートの差異

質問項目 (Q3~Q5, Q7~Q9, Q12, Q15) の8項目に限りますと、当然のことながら、実施科目全体の平均値は各専攻別の平均値とは異なっています。ただし専攻別にする母数が少なくなるので、特記すべき事 (約 0.3 ポイント以上の差) のみ列挙してみます。

幼児教育専攻は、Q5の意欲的な取り組み、Q7の満足度、Q8のテーマ・領域に対する興味、Q9の教員になる意欲や動機の高まりの値が大きいことが特徴でした。

数学教育は、Q4の授業時間外の学習時間が多いのが特徴でした。

技術教育は、Q7の満足度、Q8のテーマ・領域に対する興味、Q9の教員になる意欲や動機の高まりの値が大きいことが特徴でした。

美術教育 (美術) は、Q4の授業時間外の学習時間が多いのですが、Q9の教員になる意欲や動機の高まりの値が著しく小さい (0.5 ポイント程度の差) ことが特徴でした。

その他の専攻は、全体の平均値との差が 0.2 ポイント以内でした。

以上のことは、母数が少ないので経年でデータを蓄積しないといけないのですが、これらの結果を参考に、今後の授業改善に役立てていただければ幸いです。

+++++

FD 委員会では、今年度も前後期 2 回の授業アンケートの実施のほか、研修会の実施を予定しています。今後ともご協力下さいますようお願いいたします。

2013年度前期の学部授業アンケート実施のお知らせ

実施期間：2013年7月10日 (水) ~7月26日 (金)

対象科目：受講登録者数 6 名以上の全授業

問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD 委員会委員：安東 (委員長)，村田 (副委員長)，内田，藪根，巻本
事務担当：高松，相原，大谷